



さいると同時に河口部に砂が堆積し始めており図-1に示すように右岸より河口内に砂が堆積していることがわかる。6<sub>2</sub>~9にかけて河口幅が変化したのは最終幅を与える位置が変化したためである。また 8<sub>13</sub>~25の変化が大きいのは前述のように河口断面がほぼ平衡に達し、河口幅が変化し得なくな、ためである。

#### 4. 結 言

1週間毎の河床観測を通い外力のみならず河口部州平面地形の発達で河口幅の変化を検討した。今後は出水による平面地形の変化を調べる予定である。

謝辞：建設省仙台工事事務所には、現地観測に關し、種々の御援助を頂いた。厚く謝意を表する。なお、本研究の一部は文部省科学研究費(奨励研究(A))により行なわれたことを付記する。

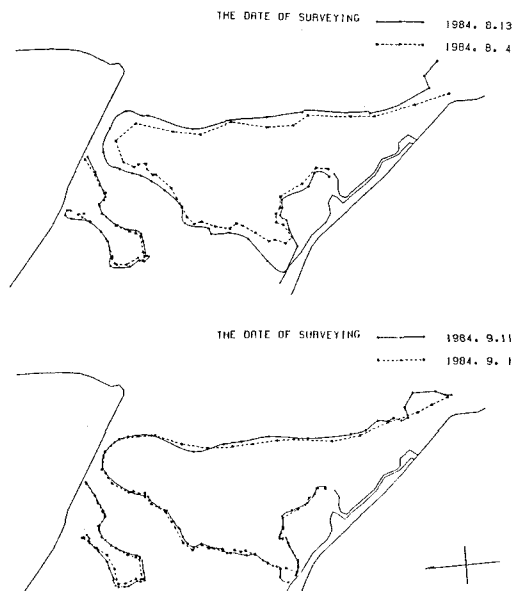
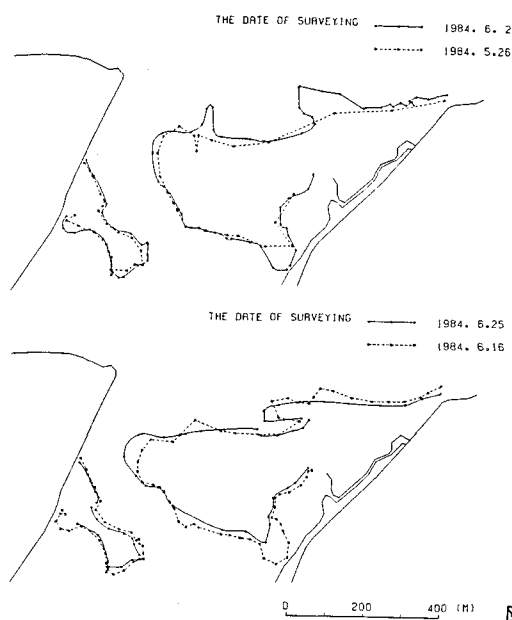


図-1. 観測期間中の代表的な平面地形

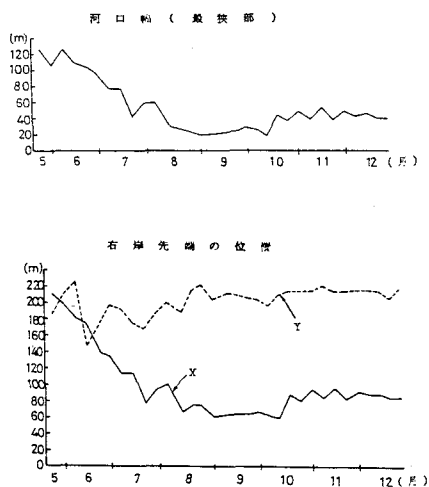


図-2. 河口幅・右岸先端位置の経時変化

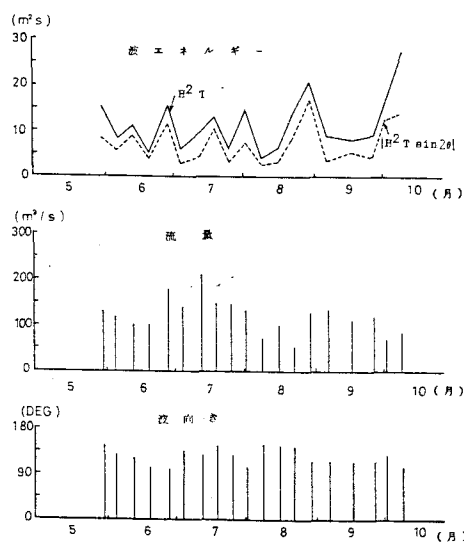


図-3. 外力の経時変化